

スマート農業プロセスイノベーション推進事業のうち ICT活用園芸産地革新モデル確立事業（R3～R5）

ねらい

本県は夏秋野菜の屈指の産地であるが、気象変動の影響により収量や品質の低下などが見られ、農家間でその差が広がっている。このため、産地においてICTを活用した環境測定と高温対策を組み合わせた技術の導入・実証を行い、産地全体の収量や品質の高位平準化を図る。

現状・課題

- 本県は、きゅうりやトマト等の夏秋野菜の屈指の産地

夏秋きゅうり	1位
夏秋トマト	3位

※ R1年実績
- 産地の信頼確保のため、収量や品質の格差を無くし、安定供給することが重要
- 近年の異常気象（特に高温）により栽培管理による収量・品質の格差が拡大

《8月の35℃以上日数は2倍》
 2001～2005平均 3.2日
 2016～2020平均 7.4日



トマトの花落ちによる収量減

きゅうりの奇形による品質低下

《高温年次には3割減収》
 R1年9月JA全農販売実績（平年比）
 トマト74%、きゅうり86%
 ※ 8月に最高気温35℃を超えた日が11日

事業内容（産地での取組内容）

実施箇所数：4箇所（R34：夏秋トマト（会津）夏秋きゅうり（須賀川）、R45：夏秋きゅうり（県北、坂下）

- ① 産地において、ICTを活用した環境測定装置と併せ施設内の高温対策として効果が期待される「ミスト冷房」技術等を導入した実証ほを設置する。併せて農業総合センターにも試験ほ場を設置して調査を行う。



水を霧状に噴射し、
 気化熱を利用して冷房



環境測定装置を導入し、
 施設内の環境をモニタリング

- ② クラウドに保存された環境測定データや生育データ、農家の栽培管理データをもとに、普及と試験研究が技術の検証、対策の効果を分析する。
- ③ 設置農家を含めた生産部会やJAと対策の効果や課題を共有し、技術の導入推進と栽培管理の改善を実施。栽培マニュアルに反映する。



データを活用した栽培管理指導

- 高温対策技術の効果をクラウドを通じて部会員が確認でき、効果的かつ速やかな改善指導の実施が可能。
- 産地全体の収量・品質の向上と高位平準化が図られる。